赤文字で記入してある箇所を例や注釈に従い記入してください

（参考様式第１－7号）生産記録
（江の設置）

組織名	雲南エコファーム
氏　名	雲南　太郎

今年度した作業内容と江の形状についての確認です

・作業名　⇒　今年度新しく江の設置をしたか（作溝あり/なし）
・実施状況　⇒　新設か/既設なら延長や補修を行ったか
・江の形状について　⇒　長さ / 幅 / 深さ / 深みの設置数

上記について記入してください
※形状の要件について、ご注意ください（※1　紙面下参照）

・配布した実施区画を参考に原則圃場ごとに生産記録をまとめてください

・ただし、同じ取組、同じ栽培方式、同じ作物ならば、別々の圃場でも一枚の生産記録にまとめて良いで

ほ場番号	実施面積	作物名（5割低減）
キスキ1 キスキ2	10a 20a	つや姫

1　江の設置

（1）主な作業等

作業名	実施状況	実施時期（年月日）	備考
本年取組向けの作溝作業	☑　新設	R5.4.10	
☑　作溝作業の実施あり	□　延長（　　）		
□　作溝作業の実施なし	□　補修（　　）		
（　令和　年 月頃設置	【江の形状】長さ　30　m　、水面幅　30　cm　、深さ　10　cm		
深みの設置	底面からの深さ　10　cm　、　設置数　3　箇所		

（2）江の設置箇所への除草剤の使用実績
（本田内の除草剤使用実績を除く）

江の設置箇所への除草剤

使用無し　　・　使用有り
（使用年月日：R6.6.1　）

※該当する項目を〇で囲むこと
使用有りの場合使用年月日を記入すること

（3）江の設置期間

	実施状況	備考
湛水開始時期	R6.6.20	
湛水終了時期	R6.7.15	
湛水期間	26　日間	

江の設置期間（湛水期間）の確認とその期間中の除草剤の使用についての確認です
もし、江の中への除草剤をした場合、散布時期と江の湛水時期が被ってないか確認して下

2　5割低減の取組

（1）主な作業

作業名	実施時期	備　考
播　種	令和6年4月上旬	
定　植	令和6年5月中旬	
収穫（終了日）	令和6年9月中旬	

（2）使用肥料　（1（3）の有機質肥料以外）

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)	慣行の5割低減の水準（kgN/10a）	備　考
〇〇有機	20	令和6年9月上旬	15	3.0		
牛糞堆肥	－	令和6年11月上旬	20	－		
合　計				3.0	4.0	

ここでは、使用された化学肥料が基準値以下であるか確認します

・施用したすべて肥料の正式名称及び窒素成分の割合、使用

窒素成分量の計算の仕方
窒素成分の割合×使用量

例）
15kg/10a×20%＝3．0kgN/10a

（注1）化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。

（注2）（A）の合計 ≦ （B）の値 となっているか確認すること。

（3）使用農薬

農薬名（剤型等、商品名）	使用時期	化学合成農薬成分回数（C）	慣行の5割低減の水準（成分回数）	備　考
〇〇殺虫剤	令和6年〇月上旬	2		
〇〇殺菌剤	令和6年〇月上旬	1		
〇〇殺菌剤	令和6年〇月下旬	2		
△△殺虫剤	令和6年〇月下旬	2		
〇〇（生物農薬）	令和6年〇月上旬	－		
合　計		7	10	

ここでは、使用された農薬が基準値以下であるか確認します
・施用したすべての農薬の正式名称及び使用時期、成分回数を記載してください

成分回数の計算の仕方
農薬が含む有効成分の数×散布回数

例）
殺虫剤（2成分）×散布1回＝2
殺菌剤（1成分）×散布1回＝1
殺菌剤（2成分）×散布1回＝2
殺虫剤（2成分）×散布1回＝2

（注1）フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。
（注2）（C）の合計 ≦ （D）の値 となっているか確認すること。

送付資料の「特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに基づく慣行レベル一覧表」を参考に農薬使用回数、化学農薬窒素成分量を確認し、ご提

3　保管書類

□　江の設置（新設・延長・補修）写真

（注）保管してある書類名の□に、■または✔を入れること。

※1　：【江の形状】長さ：10aあたり10m以上。または、面積a以上　水面幅：30cm以上　深さ：田面から深さ10cm以上
【深みの設置】底面から10cm以上の深みが10mごとに1箇所以上設置してある